

みやぎ観光戦略プラン

「地域が潤う,訪れてよしの観光王国みやぎの実現」を目指して



平成18年12月
宮 城 県

プランの策定に当たって



日本の人口は、少子高齢化によって予想よりも早く減少へと転じており、各地域とも観光などの人々の流動策を地域の活性化の切り札として施策を進めていく必要があります。

折しも、国では内需拡大など経済的側面から、日本人の海外旅行者の3分の1に過ぎない訪日外国人旅行者の誘致を促進するため、「2010年までに1000万人の訪日外国人誘致」を目標に掲げ、ビジット・ジャパン・キャンペーンを積極的に展開しています。

私は、ふるさと宮城県を観光で元気にしたいと考えています。観光は、第1次産業から第3次産業まです野の広い総合産業の一つで、その経済効果も大きいものがあります。宮城県の観光事業をはじめ各種産業が活性化され経済が豊かになることにより、福祉・教育・環境などの県民生活にも波及していくものと考えます。そのような宮城県を県民の皆さんとともに創りあげたい、それが私の富県づくりへの想いであり、また、今回のみやぎ観光戦略プラン策定の基本でもあります。

さて、人々が観光に期待するものも、一人十色と言われております。観光振興策に万能薬はありません。まさに社会のトレンドを反映するものです。

そこで、情報を強力に発信し、県外からの誘客を促進するため、平成20年に全国大型観光宣伝事業「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」という大きな呼び水、きっかけの装置を準備しました。このキャンペーンの成功の鍵はなんと言っても、各々の地域づくりの実践や磨き上げであり、県民挙げての温かいおもてなしなど地道な取組を継続することです。

そればかりではなく、この機会に県民の皆さん自身も県内を旅していただきたい。幼いころ、両親と訪れた川面や山並みの風景、恋人や夫婦で訪れた名勝や旧跡、あるいは旅先での厚い人情の記憶などもう一度訪れたいという旅への想いにかき立てられたことはありませんか。そうした思い出とともに県内の地域を再び訪れてください。当時とは違った趣をそれぞれの地域で感じ取ることができると思います。このような県内での旅や交流を皆さん自らが体験して、県外からの来訪者に様々な物語として伝えていく、そのことが宮城県の地域力を高める一助になると考えています。

今回のプランでは、3つの戦略プロジェクトに18の戦略事業を掲げ、仙台・宮城デスティネーションキャンペーンという広報宣伝事業を柱に据えて、地域の受入態勢の整備と推進組織の仕組みづくりを重点的に進めてまいります。そして、デスティネーションキャンペーン終了後も継続して観光事業が隆盛できる体制づくりを行い、「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎ」の実現を目指していきます。

プランの実行に当たっては、県も役割を十分に発揮していくものの、私はプランの目標達成のため、観光事業者や観光関連団体だけでなく、市町村や県民の皆様がそれぞれ自主的に取り組むことを大いに期待しています。共に頑張りましょう。

最後に、プランの策定に当たって、みやぎ観光戦略プラン懇話会の高橋座長、志賀副座長をはじめ懇話会委員の皆様や、前宮城県政策顧問の(株)ジェイティービー常務清水様など多くの皆さんから御指導いただき感謝申し上げます。また、お忙しい中、コラムを執筆いただいた皆様、パブリックコメントをお寄せいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

宮城県知事 村井嘉浩

「みやぎ観光戦略プラン」目次

「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」を目指して

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(1) 策定の趣旨	
	(2) プランの位置付け	
	(3) プランの目指す姿	
2	プランの目標と計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	(1) プランの目標	
	(2) 計画期間	
3	本県観光の直面する課題・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	外的要因(観光を取り巻く環境の変化)・・・・・・・・	4
	(1) 少子高齢社会の加速	
	(2) 団塊の世代の動向	
	(3) 旅行形態の変化	
	(4) 地域間競争の時代	
	内的要因(本県の現状と課題)・・・・・・・・	14
	(1) 低い(少ない)情報発信	
	(2) 「地域でもてなす」意識の不足	
	(3) 観光がもたらす効果への認識不足	
	(4) 「地域の魅力」の未活用	
4	みやぎの観光に求められる視点と目指す方向・・・・・・・・	22
	求められる視点	
	(1) 交流と発信によるみやぎの活性化	
	(2) みやぎ各地域の魅力の活用	
	(3) 東北の起点としての役割	
	目指す方向:「観光を新機軸とする県土づくり」	
5	施策展開の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・	29
	みやぎへ「いざなう」観光施策の展開・・・・・・・・	30
	- みやぎの情報発信・誘客プロジェクト(観光地みやぎへいざなう) -	
	みやぎのイメージづくり	
	みやぎの誘客ピンポイント対応	
	イベント・コンベンションの誘致	
	戦略事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・	33
	みやぎで「もてなす」観光施策の展開・・・・・・・・	38
	- みやぎの魅力創出プロジェクト(何度も訪れたいみやぎのおもてなし) -	
	みやぎのやさしい人づくり	
	みやぎのやさしい観光地づくり	
	みやぎの地域資源向上	

戦略事業	4 1
観光王国みやぎを「ととのえる」観光施策の展開	4 9
- みやぎの連携・組織づくりプロジェクト（みやぎの連携と組織をととのえる） -	
みやぎの地域力向上組織構築	
みやぎ東北ぐるっと連携	
各主体の役割分担	

戦略事業	5 3
-----------------------	-----

6 進行管理	5 6
------------------	-----

7 県内の取組事例紹介（コラム）	5 7
----------------------------	-----

・「一期一会」～おもてなしの心	仙台商工会議所
・協働による新たな観光資源づくり	宮城県大河原地方振興事務所
・市民の手で市民の財産を守る～おもてなしの心大改革	特定非営利活動法人 不忘アザレア 遠藤一夫 氏
・旅館，商店，地域住民 . . . 垣根を越えた地域づくり	東鳴子ゆめ会議 大沼伸治 氏
・イエローアイランドを目指して～資源循環の取組み	特定非営利活動法人 大島大好き 白幡昇一 氏
・グリーン・ツーリズムを通じた「都市」と「農家」の交流	加美町グリーン・ツーリズム推進会議 後藤新平 氏

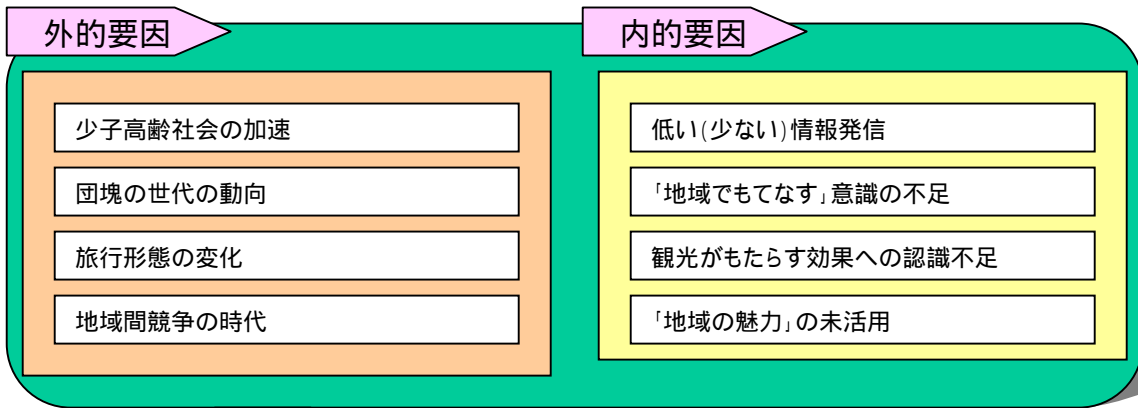
資料編

1) みやぎ観光戦略プラン懇話会委員	6 0
2) みやぎ観光戦略プラン策定の経緯	6 0
3) みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業	6 1
(1) 県事業	6 1
(2) 市町村事業	6 6
(3) 民間等事業	7 2

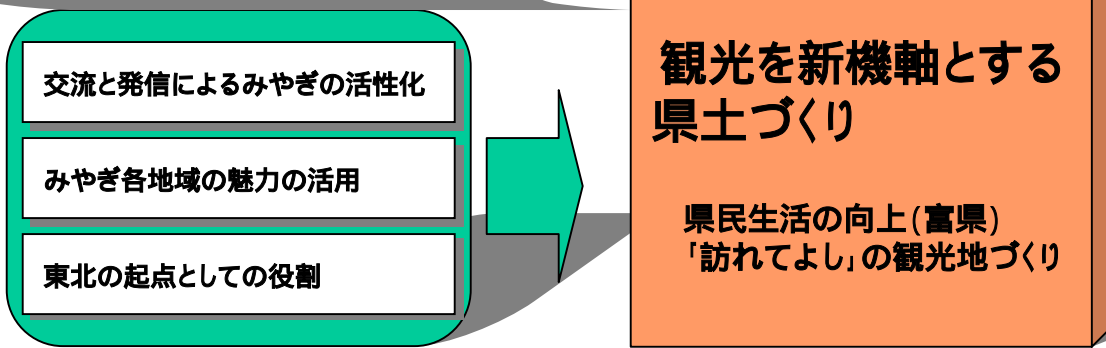
みやぎ観光戦略プラン（概要）

- 「地域が潤う，訪れてよしの観光王国みやぎの実現」を目指して -

本県観光の直面する課題



みやぎの観光に求められる視点



プランの目標

観光客を増加させ、滞在時間を長くすることにより、観光による消費を増やし、経済効果を高めることを数値目標とします。

数値目標	H17年		H22年		実行目標
	数値	千人	数値	千人	
観光客入込数	54,408	千人	60,000	千人	みやぎ観光戦略プランの実効性を高めるため、戦略事業の着手率を実行目標とします。 戦略事業の着手率 8割
宿泊観光客数	7,918	千人	10,000	千人	
観光消費額	5,284	億円	6,000	億円	
経済波及効果	9,132	億円	1兆	円	

計画期間

平成19年度から22年度まで

観光立県行動計画策定以降の新たな要因、例えば、少子高齢社会への対応や「団塊の世代」の大量退職等、今後の観光施策へ影響を及ぼす社会情勢への変化に対応するため、短期間のプランとします。

3つの戦略プロジェクトと18の戦略事業！！

もてなす！

住んでいる地域の魅力を認識し、その良さを伝えることができる人材育成、観光地としての価値向上により「地域全体でもてなす観光地づくり」を進め、みやぎを総合的に磨き上げます。

みやぎのやさしい人づくり

- ・ホスピタリティ向上への取組強化
- ・観光理解啓発
- ・地元食材によるもてなし、観光地美化運動等ホスピタリティをはぐくむ施策展開

みやぎのやさしい観光地づくり

- ・案内板・サインや標識等を重点整備
- ・観光地のユニバーサルデザイン化
- ・二次交通アクセス等観光地間移動の利便性向上

みやぎの地域資源向上

- ・みやぎの観光総点検・広域観光ルート整備の実施
- ・滞在・体験型観光の発掘・整備
- ・観光産業関連事業者等へのサポート

みやぎの魅力創出プロジェクト(9事業)

- ・みやぎ観光ホスピタリティ向上推進事業
- ・外国人観光客安心サポート事業
- ・みやぎ観光理解啓発事業 (観光教育副読本作成・活用)
- ・仙台・宮城DC受入施設整備事業

- ・食材王国みやぎ総合推進事業 (みやぎの外食産業支援事業)
- ・みやぎ滞在・周遊型観光資源発掘事業
- ・みやぎの景観形成事業
- ・自然環境保全対策事業
- ・みやぎグリーン・ツーリズム推進協議会活動支援事業

いざなう！

みやぎを訪れる人や旅行エージェント等に対して、海・山・温泉・食・歴史や文化等に関する情報を効果的に発信し、誘客手法の選択と集中によって観光地みやぎに人を呼び込みます。

みやぎのイメージづくり

- ・インターネット等を活用した情報発信

みやぎ誘客ピンポイント対応

- ・関東圏・団塊の世代・東アジアへの誘客強化
- ・「東北・みやぎ」への誘客
- ・県内の地域間交流の促進

イベント・コンベンションの誘致

- ・イベント・コンベンションの誘致

みやぎの情報発信・誘客プロジェクト(6事業)

- ・関東圏誘客促進事業
- ・首都圏産品販売等拠点施設運営事業
- ・みやぎおいしい「食」ブランド化戦略推進事業
- ・みやぎの水産物トップブランド形成事業
- ・食材王国みやぎ総合推進事業 (「食材王国みやぎ」フェア開催事業)
- ・仙台・宮城DC推進事業

ととのえる！

官民の連携強化や地域力を高める県内組織の充実、東北6県などの広域連携の体系化など観光産業の振興を推進する体制づくりを行い、観光地みやぎの組織体制を整えます。

みやぎの地域力向上組織構築

- ・県組織体制の整備
- ・官民の主体的な地域力向上に関する組織づくりの強化推進・支援

みやぎ東北ぐるっと連携

- ・東北各県の広域連携をテーマや目的別に体系化・再構築
- ・東北各県等広域的な組織づくりを推進

各主体の役割分担

- 各主体がその担い手としての力を十分に発揮

みやぎの連携・組織づくりプロジェクト(3事業)

- ・全国大型観光キャンペーン宮城県実施推進本部整備事業 (県組織体制の整備)
- ・みやぎ大型観光キャンペーン推進組織整備事業 (観光連盟の強化)
- ・みやぎ発東北観光体制整備事業
- ・仙台・宮城DC推進事業 (再掲)

「」印は、計画期間内の新規事業

プランの推進体制

みやぎ観光戦略プランの実効性を高めるため、**みやぎ観光戦略プロジェクトチーム**を編成し、戦略事業の実施状況の検証や、広域ルートの商品づくりや観光資源の磨き上げなど地域での取組に継続的に参画して、観光戦略プランの効果を高めていきます。



1 はじめに

(1) 策定の趣旨

概要

宮城県では、平成 10 年 3 月に「宮城県観光立県行動計画」(計画期間：平成 10 年度から 19 年度までの 10 年間)を策定しました。

この間、平成 13 年に「新世紀・みやぎ国体」、また、平成 14 年に「2002FIFA ワールドカップ」が開催されるなど、「みやぎ」の知名度を高めることができました。同時に、「観光地づくりは地域づくり」との認識から、地域(観光)資源の掘り起こしや受入態勢の整備などに努めているところです。

なお、平成 11 年度には、政策評価指標として観光客入込数を目標値 5,500 万人(平成 22 年)と設定し、おおむね順調に推移してきています。

新たに考慮すべき要因

上記の行動計画策定以降、全国的には、少子高齢社会への対応や、いわゆる「団塊の世代」の大量退職時代の到来、また、県内においては、仙台空港アクセス鉄道の整備・活用等、今後の本県観光施策に多大な影響を及ぼす社会情勢の変化が訪れます。

また、人口減少時代を迎え、域内(県内)、隣県から関東圏・関西圏といった国内交流の増大にとどまらず、昨今の東アジアの経済成長に伴う富裕層の取り込みを視野に入れた観光施策の展開が求められています。

問題点等

県内においては、日帰り客に比して経済波及効果の高い宿泊者数は、平成 3 年をピークに、横ばいの状況であり、これを増加させることが富島の礎と考えています。

このため、県では、「地域経済への波及効果が高く、グローバル時代での成長分野でもある観光産業」を戦略産業として平成 18 年度「政策方針」の中に位置付けたところです。

戦略プランの必要性

宮城県のみならず東北各県への観光産業の振興に際し、本県には高速交通インフラ¹を活用しながら、各県各地域と連携し、観光地としての魅力を相乗的に発揮し、発信する役割を担うことが期待されています。

また、平成20年(10月から12月)には、官民一体となった大型観光キャンペーン「デスティネーションキャンペーン²」が本県単独では初めて開催されるなど、観光振興を図る上で絶好の機会が到来しています。

こうした社会情勢に対応し、観光振興の新たな仕組みづくりを進めるため、「みやぎ観光戦略プラン」を策定し、経済効果はもとより、誰もが地域に誇りと愛着を持てるような地域づくりを進める「地域力」、地域へ観光客を引き寄せる「観光力」の向上を目指していきます。

1 社会的経済基盤と社会的生産基盤とを形成するものの総称

2 P.36 参照

(2) プランの位置付け

「みやぎ観光戦略プラン」は、平成18年度の政策方針の具体化であり、また、「宮城の将来ビジョン」及び「みやぎ産業振興ビジョン」等の個別計画として位置付けられます。

今回のプランは、情勢変化に即応すべく、短期間(4年)で、かつ、対象を絞って計画を実現するために策定するものです。

(3) プランの目指す姿

このプランでは、県民生活を向上させる「富県共創」の一環として「何度でも訪れたい観光地みやぎ」を実現するため、「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎ」のスローガンの下、観光を新機軸とする県土づくりに着手していくものです。